

# ◇音 樂 部

三月午越、齋藤等優秀なメンバーを失つたが我々五五名の部員は柳館先生を中心に又先輩諸志の激励の元に例年行われる五月十三日の「母に感謝の音楽会」に、男声合唱「アンゲイルコーラス」「王子様御誕生」中3古川知義「グイオリン独奏」「バツハのルール」独唱「高皿村田健」「老楽士」「君がみ姿」等多種に目り出演し好評を得た。なお此時は高皿が修学旅行で高Iが主体であつた。

六月十四日は今だに皆さんの御記憶に生新しい雫石の大火である。

其の時生内先生のお家も全焼に会い先生が帰盛され三日間久保学園講堂に於て練習を行い、先生の三部作「岩手山」「北上川」「三陸海岸」を主体とする「雫石救済音楽会」を開催し雫石町に九千円を寄附し各界に「学生らしい立派な態度」との評を受けた。

なおも我々部員一同は張切つて練習にいそしんだのである。

十月十三日今迄女子連合音楽会であつたのが今年から男女共学の主旨から我々も出演出来る様になつたので高校としての最高の音楽会でもあるので猛練習をした。此の時音楽会の前の日柳館先生が疲労の為倒れられたが先

生は齒を喰いしばつて出演されて県下唯一の男声合唱団岩高音楽部の名を高めた。

曲目は「男声合唱」「ブルドックと蛙」

「聴け駒鳥の歌」「平和の鐘」独唱「高皿村田」「母」「忘れさせ給え」なお此時本校開校以来部員高皿(鷹鷲)の伴奏が光つて居た。其の後柳館先生は急性肋膜炎と診断され三ヶ月の絶体安静となられる身となられた。

其の時我々は、音楽会が大好評であつたのを唯一のなぐさめとして先生に送つた。

十一月三日岩<sup>高</sup>中二十五年記念にはわざ／＼

東京から生内先生を御よびし又水原一先生の御骨折で水原一作詩、生内義夫作曲の岩<sup>高</sup>中祝典カンタータを上演し好評であつた。此の頃

より我々待望の生内義夫先生の第二回作品発表会の話が決まり会員は大きな目的に向つて練習に励んだ。又賛助出演として清水義人さん、内田宏さん、阿部昭吾さんに御願して「平和作成記念生内義夫作品発表会」を華々しく開幕した。清水さんの独唱は素晴しく又生内義夫作曲のヴァイオリンソナタはアンコールを受け交声曲「平和」が終つてから暫く聴衆は動かなかつた。

後輩諸君よ今後益々岩高音楽部を繁栄たら